

小山三中生徒が看護師体験

小山市立小山第三中学校の2年生4人が11月18、19の2日間、城西病院で看護師の仕事を体験しました。体験したのは、諏訪有美さん、鳥光萌花さん、大山貴寛君、千葉郁弥君の4人。諏訪さんと大山さんは平成26年にキャリア教育で同級生ら24人とともに城西病院を見学しており、今回は「もっと病院について知りたい」と、再度訪問しました。

4人は、病院内の検査室や手術室、城西総合健診センターなどの施設を訪れ、専門家たちから様々な仕事についてレクチャーを受けた後、回復期リハビリテーション病棟で看護師の体験をしました。

看護師から、仕事の内容を聴いて、車いすや水銀計による血圧測定、聴診器など、看護師がふだん使っている機器類を体験。2日間で食事を運ぶのを手伝ったり、看護の様子を見学したり、患者さまと話をしたり、看護師にインタビューをしたりしました。特に、患者さまの了解を得て聴診器で心音を聞いたり、脈流の音を聞いたり、リハビリのお手伝いをしたりと、貴重な体験もしました。

諏訪さん、鳥光さん、千葉君は看護師志望。諏訪さんは「病院ではいろんな人がかかわり合っている。医療の中の選択の幅が広がりました」、鳥光さんは「看護師は医師の補助と思っていたが、看護という

役目が看護師にあることを知りました。優しい看護師になりたい」、千葉君は「看護師は、医師の補助ではなく、パートナーということが分かりました。看護師になりたいと思いました」と話していました。

大山君は医師志望で「亡くなった母が病気の時、医師がつきっきりで診療し、家にまで来て本当によく診てもらいました。看護師の体験をして、このような病院で働きたいと思いました」と感想を話していました。

平成27年11月14日

